

2023年度 卒業生進路先企業アンケート結果について（報告）

1. 実施目的

本学卒業生が在籍している企業・団体などに対してアンケート調査を実施し、本学が掲げる、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及び養成しようとする人材像に沿った人材を社会に輩出できているか、また、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及び養成しようとする人材像そのものが社会（企業）の求める資質・能力・人材像と合致しているかの検証に役立てることを目的とする。

2. 実施概要

【調査期間】：2023年9月5日（火）～2023年9月26日（火）

【調査対象】：

以下の①または②の条件に当てはまる企業を中心に100社程度を対象とする。

- ① 直近5年以内に就職実績のある企業
- ② 学内イベントへの参加や、就職課（学生・キャリア支援課）来訪実績があり、本学卒業生の特性を良く知る企業

【回答状況】：44社（142社中）

3. 設問について

昨年度実施した企業アンケート結果では、本学卒業生に足りていない能力として「コミュニケーション能力」や「英語力」を選択した企業が多く見受けられた。当該結果を踏まえ今年度は以下の点に留意し設問とした。

・Q1～Q3の回答選択肢を同一とし、それぞれ以下の点を問う設問とした。

[Q1、大卒新卒者採用において全般的に求める能力]

[Q2、本学卒業生に備わっている能力]

[Q3、本学卒業生に足りない能力]

・アンケート実施の基本的な考え方である「本学が掲げる、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及び養成しようとする人材像に沿った人材を輩出できているか等を検証するものであること」を念頭に、Q1～Q3の設問の選択肢を本学のディプロマポリシーに含まれている能力要素を細分化したものとした。

・理系の技術職や本学学生にどの程度の英語力を求めているのか、具体的な場面設定や指標を用いて設問を設定した。

4. アンケート結果

別紙参照のこと。

5. アンケート結果の検証

- ・「一般常識・教養教育」、「基礎的な知識・技術」、「専門的な知識・技術」の3項目については、本学卒業生に備わっていると回答した企業が多数であった。日々の授業や研究活動において身に着けたこれらの素養が企業からも評価されていると言える。
- ・「自ら課題を設定し、解決する能力」、「意欲・積極性」、「コミュニケーション能力」は、企業が大卒新卒者に特に求めている能力であることが見て取れる。これらの能力は、本学卒業生にも備わっていると回答した企業が多い一方で、不足していると回答した企業も一定数見受けられた。
- ・「国際的な視野をもって活躍できる能力」については、大卒新卒者に求める能力として回答した企業は少数であった。また、本学卒業生に備わっていない項目として最も回答を集める結果となった。
- ・技術系職種の採用における英語力について、「英語力を重視している」と回答した企業は外資系企業が中心であった。また、今回のアンケートにおいては「英語力が高いに越したことはないが、専門的な知識・能力をより重視しているため、相対的に重視していない」の項目が最も多く選択された。
- ・「ディプロマ・サプリメント」や「オープンバッジ」を採用活動に活用している企業は限定的であった。

6. 改善事項

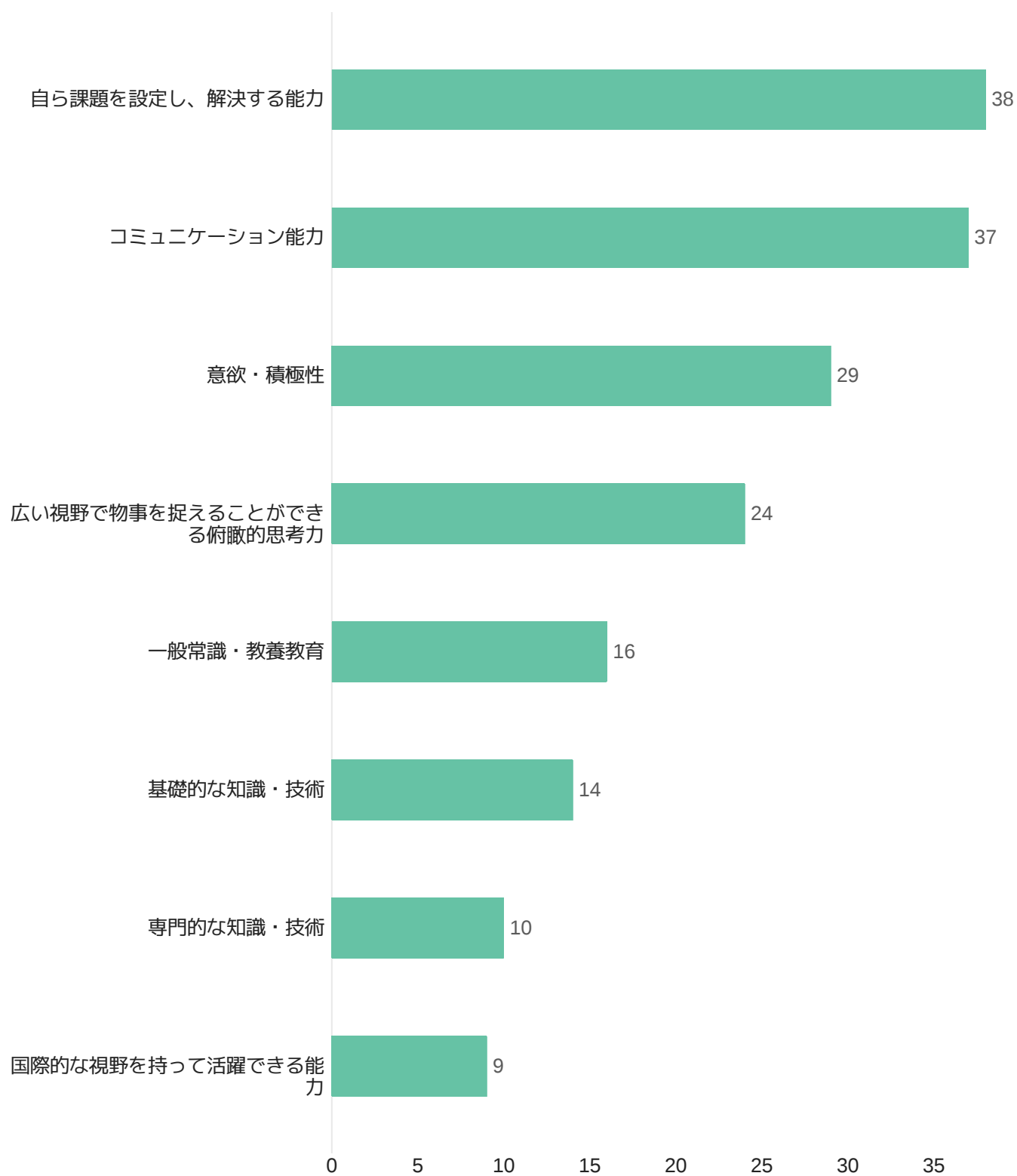
- ・本学卒業生の強みである項目として「コミュニケーション能力」を選択した企業が、昨年度アンケートでは46%(102社中47社)であったが、今回のアンケートでは54.5%(44社中24社)と評価が高まる結果となった。本来の理科大生は相手の話を聞き、理論的に話せる能力に定評があり、今回のアンケートの設問が適切であったのではないか。次年度以降も実態に即した状況を把握できるよう、設問を工夫して取り組んでいく。
- ・「国際的な視野を持って活躍できる能力」を向上させるため、支援講座（外資系企業との協働施策）の実施を検討していく。

以上

Q1以下の能力のうち、大卒新卒者採用において重視する項目がありましたらご選択ください。

(複数選択可)

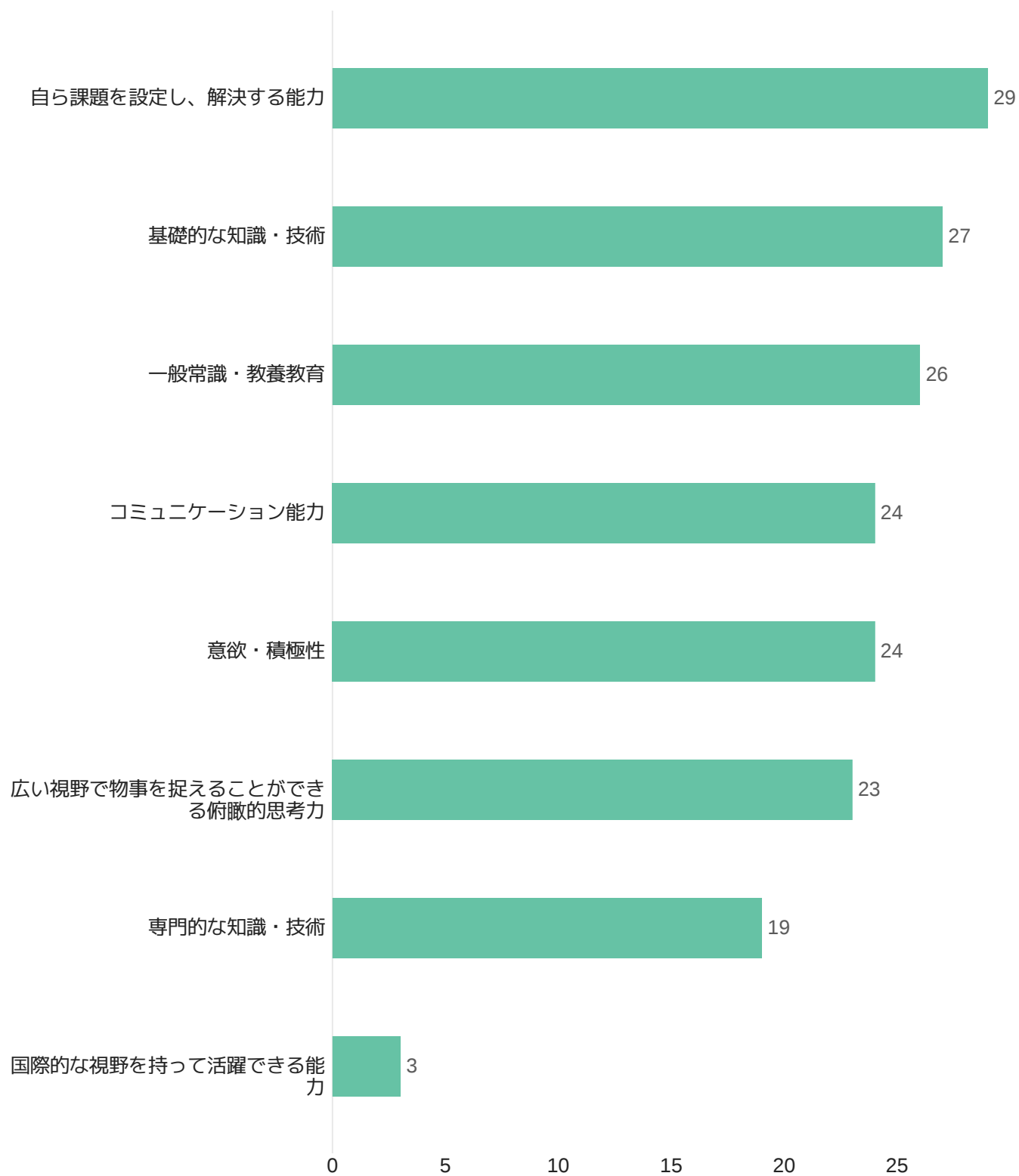
44件の回答



● 選択肢数

Q2貴社に在籍している本学卒業生について、以下の能力のうち、備わっていると感じられる項目をご選択ください。（複数選択可）

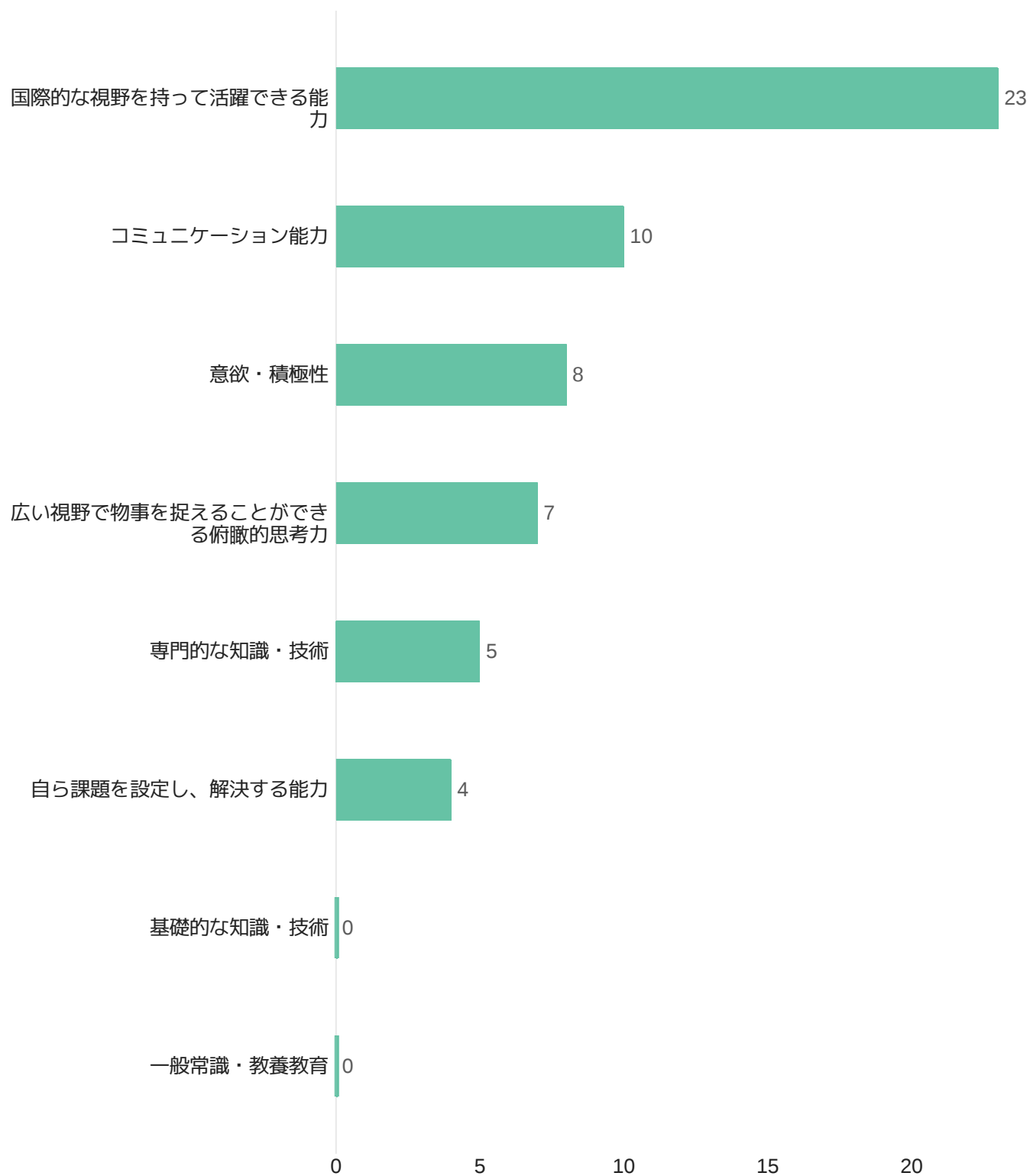
44件の回答



● 選択肢数

Q3貴社に在籍している本学卒業生について、以下の能力のうち、足りないと感じられる項目をご選択ください。（複数選択可）

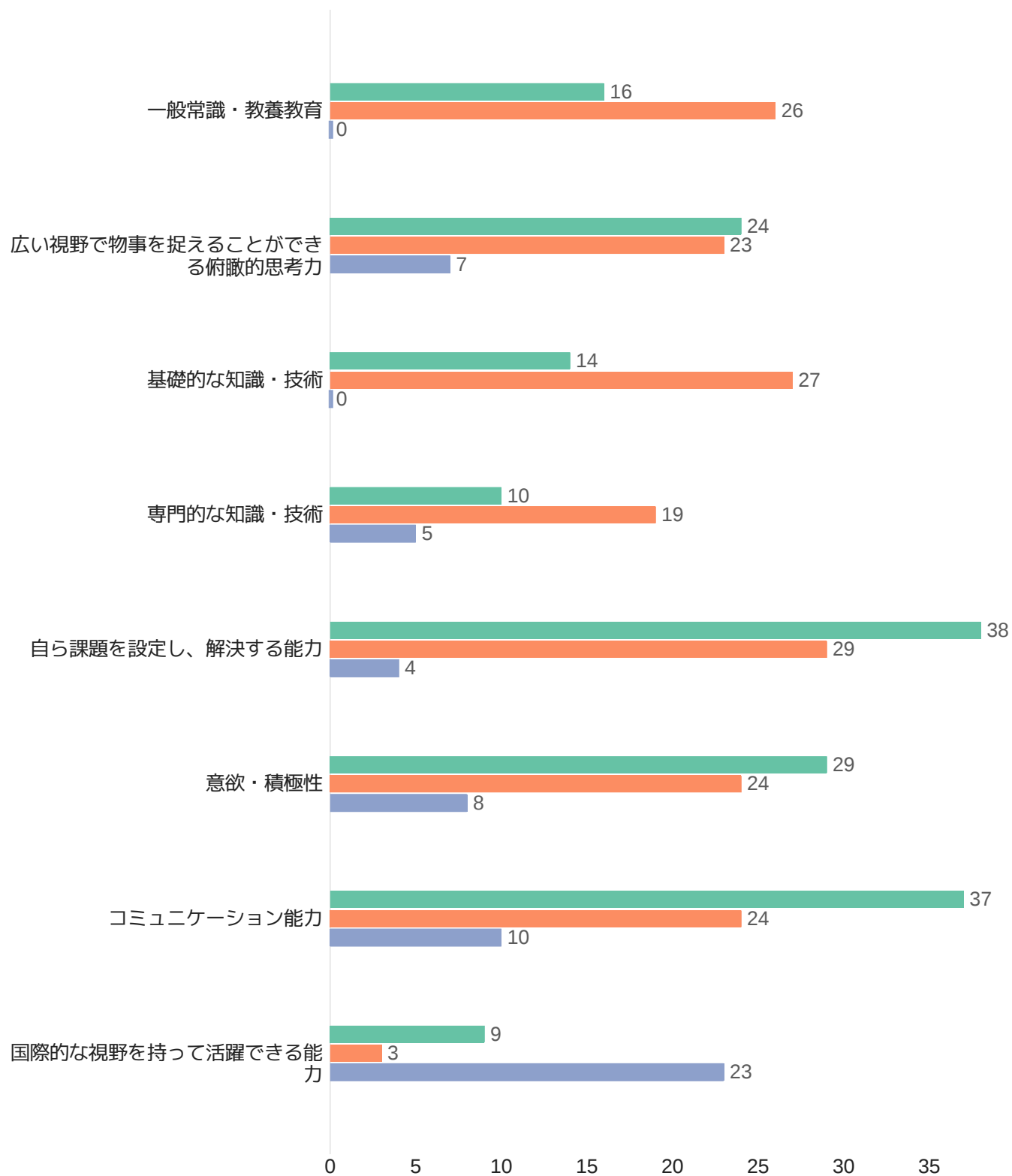
42件の回答



● 選択肢数

Q1～Q3_回答結果集約

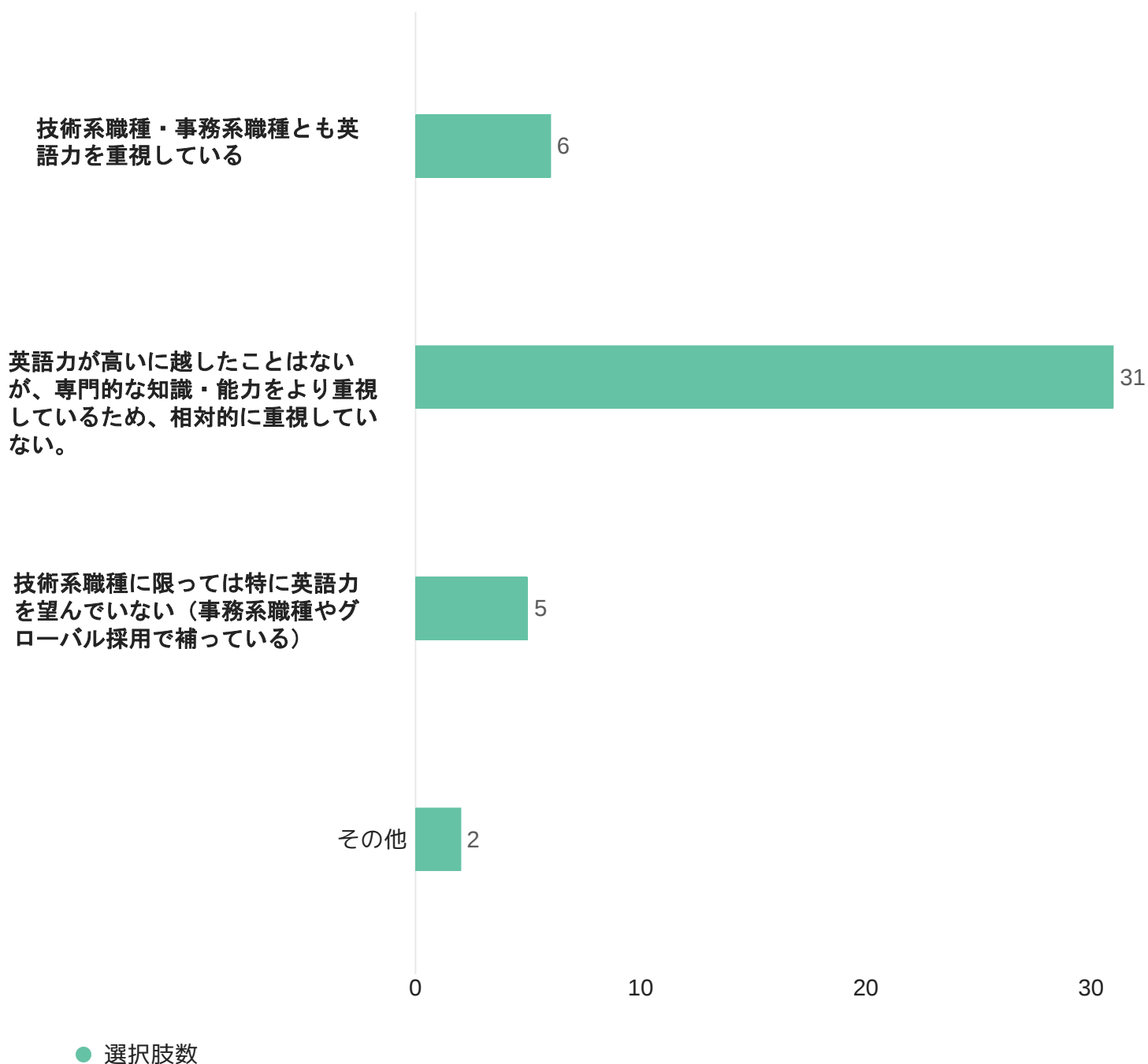
44件の回答



- Q1 大卒新卒者採用において重視する項目
- Q2 本学卒業生に備わっている項目
- Q3 本学卒業生に足りない項目

Q4外国語（英語）能力について伺います。本学のような理系学生（技術系）の採用に際し、貴社ではどの程度外国語力（ここでは「英語力（会話・読解を含む）」とする）を重視していますか。

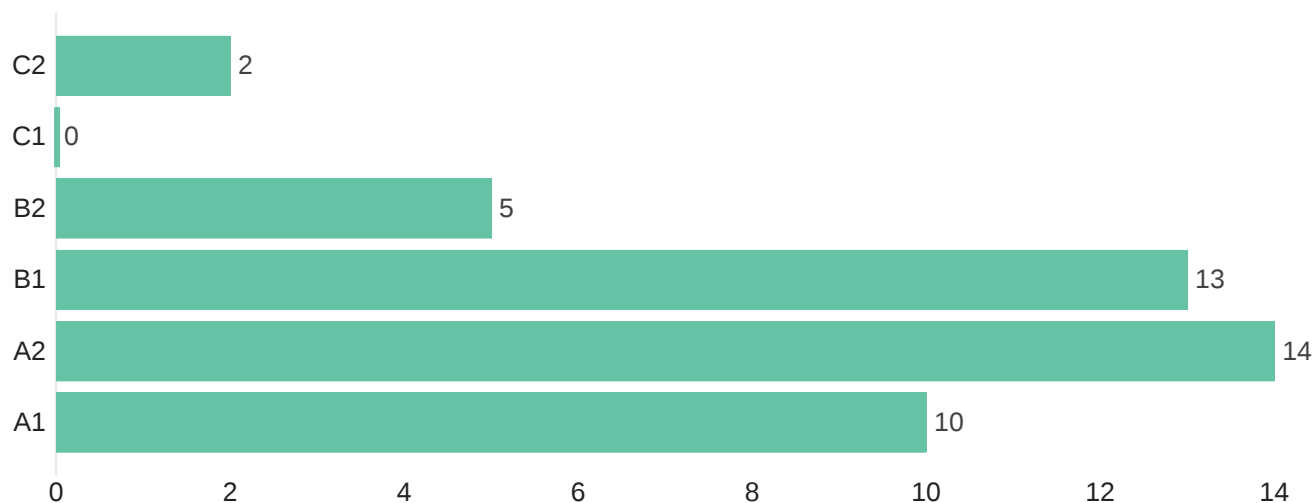
44件の回答



Q5以下の選択肢から、新卒採用選考において、本学学生に求める外国語（英語）のコミュニケーションレベルをご選択ください。

※各選択肢の具体的な到達レベルは表をご覧ください。選択肢のうちC2が最も高いレベル、A1が最も低いレベルを示します。

44件の回答

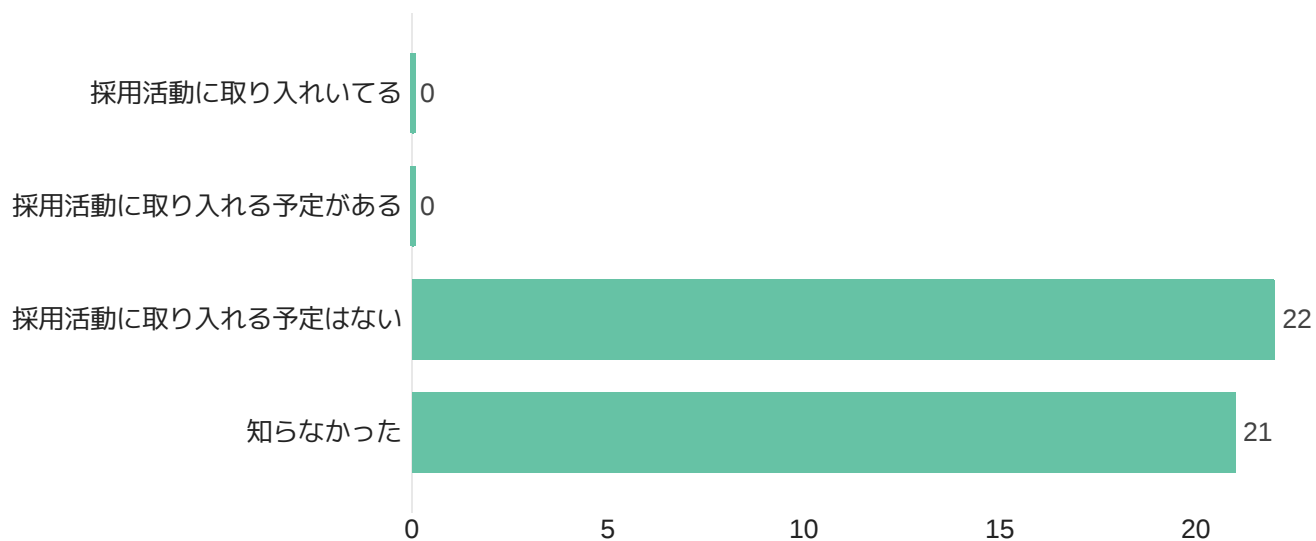


● 選択肢数

段階	CEFR	能力レベル別に「何ができるか」を示した熟達度一覧
熟達した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介ことができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

Q6「ディプロマ・サプリメント」(※)について伺います。貴社の採用活動における活用状況について、以下の選択肢から当てはまる項目をご選択ください。

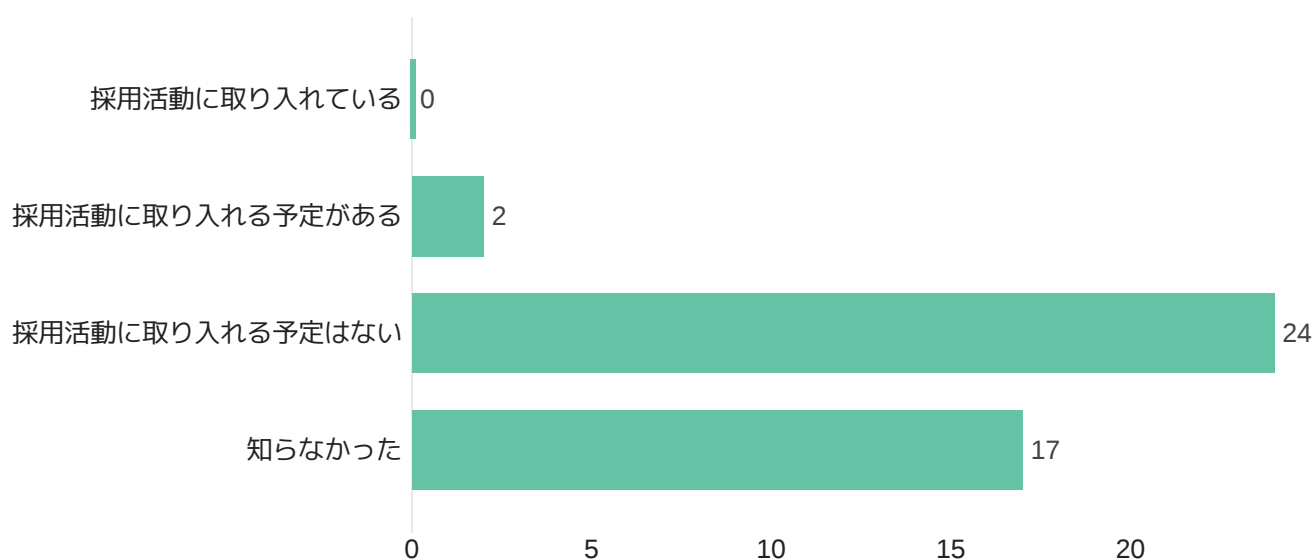
※学生が大学の学修において身につけた能力などを証明する資料のこと。



● 選択肢数

Q7「オープンバッジ」(※) について伺います。貴社の採用活動における活用状況について、以下の選択肢から当てはまる項目をご選択ください。

※学生の修得した資格や受講した講座等を証明するデジタル証明・認証のこと。



● 選択肢数